

# 育苗センター最盛期 令和2年産米スタートへ



## 播種作業

4月9日（木）からJA育苗センターで播種作業が始まりました。当日は「ちほみのり」の種もみを播種しました。翌日からは作付の9割を占める品種「コシヒカリ」約10,000箱の播種を行いました。全自動の機械でセットされた苗箱に、①床土、②農薬（ファーストオリゼプリンススピンノ粒剤6）、③種籾、④覆土、の順に入れ、灌水していきます。こうしてできた苗は出芽室にて蒸気出芽されます。



▲播種作業を行う様子

## 苗をビニールハウスへ

4月13日（月）より出芽室にて蒸気出芽された苗をビニールハウスに並べ始めました。苗を4列に並べる機械を使って作業していきます。JA育苗センターでは両新田地区は北側に17棟、南側に10棟、片貝地区では5棟の計32棟のビニールハウスがあります。最大で1棟のビニールハウスに約3,100箱もの苗が並べられます。棟全体では約76,400箱にもなります。その他にも東小千谷育苗組合に委託している苗もあります。



▲苗を並べる様子

## 出芽苗受け渡し

4月15日（水）より個人、各育苗組織に出芽苗の受け渡しを開始しました。出芽室の苗は出荷に合わせて、3日前から30度以上の蒸気で温め出芽させます。出芽室で適切な温度で管理することで、良い状態の苗を渡せるよう心掛けています。初日は「コシヒカリ」、「こしいぶき」、「こがねもち」、「ちほみのり」、「あきだわら」の5品種。合計で5,419箱受け渡しました。出芽苗の受け渡しは4月28日（火）まで続き、合計で約61,000箱を予定しています。



▲出芽させた苗

## 硬化苗受け渡し

5月5日（火）から硬化苗の受け渡しが始まります。初日は「ちほみのり」や「こしいぶき」を中心に、約8,000箱を予定しています。「コシヒカリ」は5月10日（日）から出荷を予定し、合計約71,000箱です。

## 「にじのきらめき」

今年度から「にじのきらめき」の取扱いを開始します。この品種は平成30年に登録された品種で、コシヒカリよりも短稈で耐倒伏性に優れています。また、高温障害にも強く良食味として期待されています。今年度は5人の生産者に試作としてお願いして、約3畝の作付を予定しています。



▲苗の受け渡しを行うJA職員

## 収穫に向けて

令和元年産は出穂時期の異常高温、無降雨、成熟期のフェーン現象により、品質低下を招き、一等米比率は9.5%となり過去にない結果となりました。

令和2年産では記録的な小雪により水不足が懸念されています。

栽培技術を再確認し、土づくりや出穂時期の適正な水管理を行うことで、おちや米の品質安定化とさらなる向上を図ります。



▲ビニールハウスに並べられた苗